

評価報告概要表

■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成28年11月17日 (木)

■福祉サービス事業者情報

名 称	特別養護老人ホームセンチュリー21	種 別	特別養護老人ホーム
代表者氏名	施設長 久保 章	開設年月日	平成1年4月1日
設置者	社会福祉法人 愛世会	定員(利用人数)	80名
所在地	宇部市大字山中126-1		
電話番号	0836-62-1021	FAX番号	0836-62-1027
ホームページアドレス	http://www.ube-century21.jp/		

■総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

◇特に評価の高い点

○4度目の受審であり、自らのサービスの質について、第三者の客観的視点での評価を継続的に得たという姿勢は高く評価できます。

○認知症専門ホームとして設立された歴史的経緯とその強い想いのもと、質の高い認知症ケアを実現すべく、施設長・主任等がリーダーシップを発揮し、「おだやかに、健やかに、それが私たちの願いです」という法人理念を浸透させ、現場スタッフの笑顔と思いやりに満ちた対応により、利用者のペースを尊重した、穏やかで、健やかな、安らぎのある時間がゆったりと流れていました。

○今後とも認知症ケアをキーワードに地域に向けた取り組みを通して地域福祉の拠点としての役割を果たすとともに山口県における認知症ケア施設のリーダーとしてさらなる飛躍を期待します。

◇改善を求められる点

○第三者評価の継続受審が残念ながら十分にサービスの質向上に活用されていないように思います。今から3年後の受審に向かって全職員でこの評価結果を共有し、評価基準の考え方と評価のポイント着眼点を再確認し、中・長期計画のなかで、あるいは年度計画のなかに目標設定し、達成基準を明確にし、評価し、改善につなげる仕組みづくりを検討されてはいかがでしょうか。

○法人・施設のありたい姿を明確にし、それに向かって改善し続けるという強い意志が必要であるように思います。現場を巻き込んだ「単なる思い付きでない、やり続ける姿勢」が必要ありませんか。

○現在提供されている質の高い認知症ケアは、現場スタッフのかなりの頑張りで支えられています。第三者評価を有効に活用され、現在の「サービスの質＝スタッフの力量」ではなく「サービスの質＝マネジメントシステム(仕組み)×スタッフの力量」となるよう仕組みづくりを推進されませんか。

■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

高齢者の介護事業を取り巻く状況が、めまぐるしく変化する状況下において、我が施設は第三者から、どのような評価を得ているのかということを知ることは、事業経営上とても大切なことだと思います。これまで第三者評価を継続受審し、今回で4回目の受審となりました。これまでも増して、この評価結果を重く受け止め、認知症専門ホームのパイオニアとして、皆様の期待に添える施設となるよう、職員が一丸となって取り組んでまいります。

評価報告概要表

■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	1	b	8	c	0	Na	0
<p>○法人の理念「穏やかに健やかにそれが私たちの願いです。」と3つの運営方針が明文化されるだけでなく、施設長、主任等がリーダーシップを発揮し、日常ケアが提供される現場において、ご利用者様の「自分らしく暮らしたい」を実現に向けた取り組みが行われ、第三者評価を3年ごと受審される継続的な改善に向けた姿勢は高く評価できます。</p> <p>○中期計画が策定されたことは評価できます。中期計画・年度計画について、法人理念や基本方針の実現に向けたより具体的取り組み(いつまでに、何の目的で、何をやるか)を示すとともに、その取り組みを評価できるよう達成度(できたかどうかわかる数値目標)が必要ではないでしょうか。PDCAサイクル(P計画-D実施-C評価-A改善)を意識した取り組みが望まれます。</p>								

II 組織の運営管理	a	6	b	12	c	0	Na	0
<p>○産前産後休暇・育児休業、有給休暇の取得のしやすさや福利厚生充実などの「職員が法人から大切にされていると感じる取組」は高く評価できます。</p> <p>○社会福祉法人の責任の一つである「情報開示」について、積極的な取組が行われていることは高く評価できます。ホームページについてはリニューアル中とのことでしたが施設名で検索できるかなど確認が必要ではありませんか。</p> <p>○毎月の認知症専門研修の実施や認知症介護リーダー研修・認知症介護実践者研修の積極的受講など、認知症ケアの質を高めるための教育・研修の取り組みは高く評価できます。もう一步踏み込んで、法人として職員の教育・研修に関する基本姿勢を明示するとともに、職員一人ひとりの教育・研修計画の策定をされるなど、体系的に整理されてはいかがでしょうか。</p>								

III 適切な福祉サービスの実施	a	9	b	9	c	0	Na	0
<p>○介護技術チェック表を活用した職員一人ひとりの介護技術向上の取組は高く評価できます。</p> <p>○身体拘束ゼロ、虐待防止に対する意識は高く、施設長と職員間において共通認識されていました。「尊厳の保持」と「自立支援」、安全・安心の心豊かな暮らしを実現しようとするリーダーシップと職員の頑張り評価できます。</p> <p>○必要なマニュアルや指針が整備されていましたが、作成日や改定日が不明なものがあるなど管理されている状態とはいえませんでした。管理方法を含め検討されたいかがでしょうか。</p> <p>○利用者満足(利用者・家族)について、何らかの方法で満足度を把握するような取組が必要ではありませんか。利用者ニーズを的確につかむことや、利用者が満足されているかを確認することについて工夫され、さらなる改善を図られることを期待します。</p>								

IV 良質な個別サービスの実施	a	25	b	8	c	1	Na	0
<p>○認知症ケアについて尊厳の保持と自立支援を念頭に、その介護力を高めるさまざまな取組を実践されていることは高く評価できます。センター方式を活用した個別ケアが利用者一人ひとりにきめ細かな心配りとともに提供されていることが、利用者の穏やかで、健やかな様子から感じることができました。機能訓練指導員を専属で配置されたことも評価できます。今後はさらなる機能回復や生きがいづくりへの支援を関連施設との連携やボランティア、地域を巻き込んで進められてはいかがでしょうか。</p> <p>○健康管理についてしっかりした看護体制があり、嘱託医との密な連携のもと緊急時等にも迅速な対応が行われており評価できます。</p>								